



Professional Institute of International Fashion

国際ファッション専門職大学

2025年度・第1回公開講座@ZOOMウェビナー

9.27 SAT 13:00▶14:30

参加無料

参加のお申し込みは、下記URLより受付中です！
※QRコードからもアクセス可能です。
申し込みフォーム▶<https://x.gd/eKmlm>



Speaker ◀ 永澤陽一 Yoichi Nagasawa

(国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部学部長)

渡辺後、『TOKIO KUMAGAI』のチーフデザイナーを経て独立。自身のブランド『YOICHI NAGASAWA』を東京コレクションで発表の後、長年にわたりパリコレクションに参加。「AEON」や「無印良品」「ニューバランス」など、多数の有名企業の衣料部門の総合プロデュースを歴任する他、「東京メトロ」など大手企業の制服も多数手がける。また金沢21世紀美術館をはじめ国内外で展覧会を開催するなど幅広い分野での実績を多数持つ。金沢美術工芸大学 デザイン科ファッションデザインコース 名誉客員教授。毎日ファッション大賞受賞。

「Beyond Creation—永澤陽一の創造と革新」をめぐって

9月13日(土)から11月9日(日)まで、神戸ファッション美術館にて本学学部長の永澤陽一教授の展覧会「Beyond Creation—永澤陽一の創造と革新」が開催されます。普段は本学の教員が自身の専門領域を講義形式で語る場合がほとんどですが、今回の公開講座では少々趣を変え、同美術館における本展覧会の担当学芸員でいらっしゃる浜田久仁雄氏をゲストにお迎えします。第一部では浜田氏による神戸ファッション美術館についての紹介や話題を呼んだ過去の展示、さらには、ファッションを美術館で展示することの意義や価値などについてお話をいただきたいと思います。

第二部は浜田氏と永澤教授とのトークセッションで、今回の展示全体にかかわるコンセプト、個々の作品についての解説や制作の経緯などを話していただく予定です。デザイナー自らが作品を語ることで自体なかなかないことですし、さらに、美術館の学芸員が作品をいかに解釈し、評価し、実際の展示に反映させていくのかを聞くのも興味深いところではないでしょうか？ 以下は神戸ファッション美術館のホームページ(<https://www.fashionmuseum.jp>)に掲載されている「Beyond Creation—永澤陽一の創造と革新」の概要です。本講座の時点ですでに展覧会を観られたという方も、本講座の後に観に行かれる予定の方も、是非、参加していただければと思います。

永澤陽一は、1990年代よりファッションデザイナーとして時代の先端に挑み続けました。自身のブランド『YOICHI NAGASAWA』で長年パリ・コレクションに参加し「毎日ファッション大賞」を受賞。さらに「無印良品」や「AEON」などの企業のプロデュースを手がける一方、金沢美術工芸大学名誉教授、国際ファッション専門職大学教授として後進の指導にも尽力、その後も国内外の展覧会に出展を続けています。本展では、その発想の源流と創造性に焦点を当て、次世代のクリエイティビティに新たな火を灯すことを目指します——神戸ファッション美術館HPより



Guest ▶ 浜田久仁雄 Kunio Hamada

(神戸ファッション美術館 学芸員)

神戸ファッション美術館学芸員。関西学院大学大学院文学研究科美学専攻を経て、西武百貨店(美術館担当)勤務。1994年より、神戸ファッション美術館学芸員。国内初の公立ファッション専門美術館の建設に当たり、展示室・収蔵庫の設計、作品の収集、展示を担当。西洋歴史衣装、現代衣装、和装、民族衣装用に多種多様な450体を超えるマネキンの設計、製作。それらのマネキンを使った多くのファッション展を企画。2014-17年、画期的なファッション展開催によるファッション界への貢献などによって4年連続で、毎日ファッション大賞岡阿美子賞ノミネート。

(主な展覧会)「祝祭の衣装展 ロココ時代のフランス宮廷を中心に」(2009年目黒区美術館他)「ボワレとフォルチュニ 20世紀モードを変えた男たち」(2009年東京都庭園美術館他)、「ファッション奇譚—服飾に属する危険な小遣集」(2010年)、「感じる服 考える服:東京ファッションの現在形」(2011年 東京オペラシティアートギャラリー他)、「ファッション史の愉しみ—石山彰ブック・コレクションより—」(2014年 世田谷美術館他)、「デジタル×ファッション 二進法からアンリアルレイジ、ソマルタまで」(2015年)、「Flowers モードに咲く花」(2019年)、「絵画のドレス/ドレスの絵画」(2021年東京富士美術館)、「祝祭の景色 世界の結婚式」(2022年)、「ファッション写真が語るモード—写真とドレスの関係性」(2024年)、「フェスティバル展 世界のお祭りと舞踏衣装」(2025年)